

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス すきっぷ神楽		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 16日	～	令和8年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 25日	～	令和8年 3月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	挑戦する気持ちを大切にしています。	野球支援やスキー支援などの活動を通して、子どもたちが挑戦する経験を大切にしています。 「頑張ったらできた」「失敗してもまた挑戦すればよい」という経験を積み重ねることで、自信につながるよう日々の支援を行っています。 また、卒業後に部活動へ参加し、充実した学校生活を送っているという報告も多くいただいております、子どもたちの成長を職員一同嬉しく感じています。	野球支援やスキー支援などの活動を通して、子どもたちが挑戦する経験を大切に、小さな成功体験や自信につながる支援を行っていきます。
2	SSTやコグトレ、運動遊びなど、静と動の活動のバランスを考えた総合的な活動内容を提供しています。	SSTやコグトレ、運動遊びなど、静と動の活動のバランスを考え、メリハリを持った支援を提供しています。また、活動によっては年齢に合わせてグループ分けをし、取り組み内容を変えるなどしています。	活動内容について定期的に見直しを行い、子どもたち一人ひとりの特性や興味に合わせながら、より充実した活動が提供できるよう工夫していきます。
3	アセスメントや研修の充実化に取り組んでいます。	フォーマルアセスメントの書式を整備し、子どもたちの状況をより客観的に把握できるよう取り組んでいます。また、作成した個別支援計画を職員が日々確認できるよう支援記録ファイルの裏表紙に掲示し、職員間での支援内容の共有を強化しました。さらに、職員アンケートをもとに研修内容を決定するなど、職員の資質向上にも取り組んでいます。	フォーマルアセスメントを活用しながら子どもの状況をより適切に把握するとともに、職員アンケートをもとに研修内容を検討することで、職員の専門性の向上と支援の質の向上に取り組んでいます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動内容により地域の子どもたちとの交流機会に差があります。	活動内容や子どもの特性により、全ての子どもが地域交流活動に参加できるとは限らない状況があります。	地域の公園や施設の利用を通して、子どもたちが地域の中で安心して活動できる経験を増やしていきます。
2	子ども同士の関わりの中でトラブルが生じる場面があり、気持ちの整理や関係調整の支援が必要となることがあります。	発達特性により言葉でのやり取りが難しい場合や、感情のコントロールが難しい場面があり、その場の対応のみで終わってしまうことがあります。	子ども同士の関わりの中で生じるトラブルに対して、その場での対応だけでなく、終わらせるのではなく、気持ちの整理や相互理解につながる支援をより大切にしています。
3	曜日固定の利用形態により、平日に実施している行事に参加できない子どもがいる状況があります。	利用曜日が固定されていることから、実施日によっては参加が難しい子どもがいる状況となっています。	より多くの子どもたちが参加できるよう、行事の実施日を土曜日や祝日に設定するなどの工夫を行っていきます。